

科目名 (英)	こころとからだのしくみ	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	小林 亜紀
学科・コース	介護福祉科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 1限目
【実務経験】 看護師として循環器内科、血液内科、消化器内科などで勤務。							
【授業の学習内容】 病棟での勤務経験の他、看護学校教員時代の学生実習の経験、また介護老人保健施設・介護老人福祉施設での勤務から現場でのケース紹介も入れながら、わかりやすく進めていく。また、国家試験の傾向に合わせた行し、試験対策も意識していく。講師からの一方的な講義のみでなく、学生が自ら考えることができる機会を作っていく。							
【到達目標】 介護サービスを提供する際の根拠を、こころとからだのしくみから述べるができる。 こころとからだのしくみが生活行動に結びつき、基盤となっていることが理解できる。 異常の早期発見や危険予測をする上で、医療職との連携について理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 授業のすすめかたと評価方法について理解する。  【授業内容】 ・授業オリエンテーション ・健康と健康寿命			9	【到達目標】 筋肉と関節の役割を理解する  【授業内容】 筋肉と関節のなまえ 関節のはたらき 筋肉のはたらき		
2	【到達目標】 人間の基本的欲求を説明でき、どのように学習を行い物事を記憶するかを述べることで行動を引き起こすところの仕組みを理解する。  【授業内容】 マズローの基本的欲求・学習とは・記憶のしくみ 行動を引き起こすしくみ			10	【到達目標】 呼吸器と循環器の関係とはたらきを理解する、  【授業内容】 心臓の構造と機能 血管 呼吸器系のしくみとはたらき		
3	【到達目標】 人間の感情や意欲・動機付けのしくみ及び適応の仕組みを説明することができる。社会的人間としてのこころの仕組みを理解する。  【授業内容】 ・喜怒哀楽 ・適応のしくみ			11	【到達目標】 呼吸器系、循環器系の構造とはたらきを理解する。  【授業内容】 呼吸の仕組み 循環器系の仕組み		
4	【到達目標】 脳の機能を理解する  【授業内容】 脳のはたらき 神経伝達物質			12	【到達目標】 生命を育む器官について理解する。 ホメオスタシスに関するからだのしくみを理解する。  【授業内容】 生殖器のはたらき 内分泌系のはたらき 自律神経		
5	【到達目標】 適応のしくみを理解する  【授業内容】 感情のしくみ 意欲・動機付けのしくみ 適応のしくみ			13	【到達目標】 前期の内容を振り返り定期試験にむけての準備ができる  【授業内容】 定期試験対策		
6	【到達目標】 記憶について理解する。防衛機制について理解する。  【授業内容】 記憶 防衛機制			14	【到達目標】 前期の内容を振り返り定期試験にむけての準備ができる  【授業内容】 定期試験対策		
7	【到達目標】 骨のはたらきについて理解できる  【授業内容】 骨格系の名前と機能			15	【到達目標】 定期試験  【授業内容】 定期テスト		
8	【到達目標】 中間テストを行い前半7回分の理解を深める  【授業内容】 中間テストと解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	こころとからだのしくみ	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	小林 亜紀
学科・コース	介護福祉科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 1限目
【実務経験】 看護師として循環器内科、血液内科、消化器内科などで勤務。							
【授業の学習内容】 病棟での勤務経験の他、看護学校教員時代の学生実習の経験、また介護老人保健施設・介護老人福祉施設での勤務から現場でのケース紹介も入れながら、わかりやすく進めていく。また、国家試験の傾向に合わせた行し、試験対策も意識していく。講師からの一方的な講義のみでなく、学生が自ら考えることができる機会を作っていく。							
【到達目標】 介護サービスを提供する際の根拠を、こころとからだのしくみから述べるができる。 こころとからだのしくみが生活行動に結びつき、基盤となっていることが理解できる。 異常の早期発見や危険予測をする上で、医療職との連携について理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授業概要			回	授業概要		
1	<b>【到達目標】</b> なぜ食事をするのか、食事にはどのような意味があるのかを理解でき、介護の根拠を説明することができる。 <b>【授業内容】</b> ・授業オリエンテーション ・食事の意義 ・消化器系の構造と機能			9	<b>【到達目標】</b> 泌尿器系の構造と機能を理解する。 <b>【授業内容】</b> ・泌尿器系の構造と機能		
2	<b>【到達目標】</b> 食事のプロセス及びアセスメントの視点を理解する。 <b>【授業内容】</b> ・接食嚥下のメカニズム ・食欲や味覚を感じる仕組み			10	<b>【到達目標】</b> 排泄のメカニズムを理解し、介護の視点を持つことができる。 <b>【授業内容】</b> ・尿の生成 ・便の生成 ・排泄の意義と介護		
3	<b>【到達目標】</b> 心身の機能低下が食事に及ぼす影響を理解することができ、医療職との連携や介護職として観察すべきポイントを説明できる。 <b>【授業内容】</b> ・咀嚼嚥下 ・消化器系構造と機能 ・脱水			11	<b>【到達目標】</b> 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響を理解することができ、医療職との連携や介護職として観察すべきポイントを説明できる。 <b>【授業内容】</b> ・排泄、消化、腎機能		
4	<b>【到達目標】</b> 入浴に関わる皮膚・頭髪の構造と機能及び陰部の保清と尿路感染症について理解する。 <b>【授業内容】</b> ・皮膚の構造と機能 ・尿路感染症			12	<b>【到達目標】</b> 薬の基本的な取り扱いについて理解することができる。介護福祉士が実施する内服介助技術を習得する。 <b>【授業内容】</b> ・薬の吸収と排泄 ・薬の種類と効果 ・内服介助技術		
5	<b>【到達目標】</b> 入浴の目的と効果について理解でき、皮膚汚染と発汗の仕組みを理解した上で介護の役割を認識できる。 <b>【授業内容】</b> ・入浴の意義 ・皮膚汚染と発汗のメカニズム			13	<b>【到達目標】</b> 高齢者に多い疾患に用いる薬の内服方法やケアの方法を理解する。 <b>【授業内容】</b> ・内服薬の事故と予防 ・薬の作用副作用		
6	<b>【到達目標】</b> 心身の機能低下が入浴に及ぼす影響を理解し、入浴に関する観察ポイントと医療職との連携について理解する。 <b>【授業内容】</b> ・入浴動作と循環機能及び皮膚への影響 ・入浴事故			14	<b>【到達目標】</b> 後期の内容を振り返り定期試験にむけての準備ができる <b>【授業内容】</b> 定期試験対策		
7	<b>【到達目標】</b> バイタルサインとは何かを理解した上で測定することができる。また日々の健康を保つために何が必要かを考えることができる。 <b>【授業内容】</b> ・バイタルサインとは ・バイタルサインの測定方法と値			15	<b>【到達目標】</b> 定期試験 <b>【授業内容】</b> 定期テスト		
8	<b>【到達目標】</b> 中間テストを行い前半7回分の理解を深める <b>【授業内容】</b> 中間テストと解説			<b>【評価について】</b> 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	認知症の理解	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	小林 亜紀
学科・コース	介護福祉科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 2限目
【実務経験】 看護師として循環器内科、血液内科、消化器内科などで勤務。							
【授業の学習内容】 病棟での勤務経験の他、看護学校教員時代の学生実習の経験、また介護老人保健施設・介護老人福祉施設での勤務から現場でのケース紹介も入れながら、わかりやすく進めていく。また、国家試験の傾向に合わせた行し、試験対策も意識していく。講師からの一方的な講義のみでなく、学生が自ら考えることができる機会を作っていく。							
【到達目標】 認知症の理解とともに、その人の背景や歴史も理解しつつ、その方を尊重した関わりについて学ぶことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 授業のすすめかたと評価方法について理解することができる。 【授業内容】 ・授業オリエンテーション ・認知症のイメージ ・認知症の特徴			9	【到達目標】 認知症の診断要件を理解する。 認知機能と受容度の評価方法を理解する。 【授業内容】 認知症の診断と重要度		
2	【到達目標】 脳の構造と機能、症状との関係を理解する 【授業内容】 脳の構造とはたらき ・認知症の病理 ・脳症状の構造と症状			10	【到達目標】 アルツハイマー型認知症、血管型認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態を理解する。 【授業内容】 認知症の原因疾患と症状・生活障害 アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症		
3	【到達目標】 認知症と区別すべき状態を理解する 【授業内容】 脳の働きと認知症症状 ・認知症と間違えやすい症状 ・うつ病とせん妄 ・老化			11	【到達目標】 アルツハイマー型認知症治療薬、BPSDに対して用いる薬について理解し、認知症予防について理解する。 【授業内容】 治療可能な認知症 治療薬 認知症の予防		
4	【到達目標】 不安・喪失感を抱く理由を理解する。中核症状とは何かを理解する 【授業内容】 認知症の心理状態 ・不安、喪失感 ・パーソン・センタード・ケア			12	【到達目標】 認知症の人々の扱われ方とその歴史、社会保険制度上の認知症の位置づけを理解する。 【授業内容】 認知症を取り巻く環境 ケアなきケアの時代からの脱核		
5	【到達目標】 中核症状とは何かを理解する。 【授業内容】 代表的な中核症状 記憶障害、見当識障害、遂行機能障害 空間認知障害 資格認知症外			13	【到達目標】 認知症ケアの理念と倫理について学び、認知症の人の権利やかかりについて理解する。 【授業内容】 認知症ケアの理念と倫理について		
6	【到達目標】 代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を理解する。 認知症の生活障害の重要性を理解する。 【授業内容】 代表的な中核症状 失語・失行・失認 生活障害とは ADIL・IADL障害			14	【到達目標】 認知症の人の思いを理解し、支援愛用を考えることができる、 【授業内容】 認知症の人の思い 認知症により体験が生活に及ぼす影響		
7	【到達目標】 BPSDの背景要因や個々のBPSDの概要を知り、理解する。 【授業内容】 BPSDの定義 BPSDの要因 主要なBPSD			15	【到達目標】 【授業内容】 定期テスト		
8	【到達目標】 中間テストを行い前半7回分の理解を深める 【授業内容】 中間テストと解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	認知症の理解	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	小林 亜紀
学科・コース	介護福祉科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 2限目
【実務経験】 看護師として循環器内科、血液内科、消化器内科などで勤務。							
【授業の学習内容】 病棟での勤務経験の他、看護学校教員時代の学生実習の経験、また介護老人保健施設・介護老人福祉施設での勤務から現場でのケース紹介も入れながら、わかりやすく進めていく。また、国家試験の傾向に合わせた行し、試験対策も意識していく。講師からの一方的な講義のみでなく、学生が自ら考えることができる機会を作っていく。							
【到達目標】 認知症の理解とともに、その人の背景や歴史も理解しつつ、その方を尊重した関わりについて学ぶことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 前期の振り返りと後期の流れが理解できる。  【授業内容】 ・授業オリエンテーション			9	【到達目標】  【授業内容】 ・食事 ・排泄 ・清潔		
2	【到達目標】 認知症の方の背景には様々な要因が影響していることを理解する。  【授業内容】 ・アセスメントシート			10	【到達目標】 認知症の方の生活障害へのケアについて理解する。  【授業内容】 ・活動 ・睡眠、休息 ・生きがい		
3	【到達目標】 終末期における高齢者の特徴及び認知症の方の特徴を理解する。  【授業内容】 ・高齢者終末期の医療と介護 ・認知症の方の終末期医療と介護			11	【到達目標】 認知症の方にとっての環境の大切さを理解する。  【授業内容】 ・環境作り		
4	【到達目標】 新オレンジプランの内容及び成立経緯を知る。  【授業内容】 ・制度 ・サポート体制 ・認知症サポーター			12	【到達目標】 認知症の方を取り巻く多職種について理解でき、その中の介護の役割を考慮することができる  【授業内容】 ・多職種連携 ・チームアプローチ		
5	【到達目標】 認知症の方とのコミュニケーションについて考えることができる。  【授業内容】 ・コミュニケーションの基本 ・認知症の方とのコミュニケーション			13	【到達目標】 認知症家族の状況を理解する  【授業内容】 ・家族への支援 ・家族会		
6	【到達目標】 認知症の方へのアプローチについて考えることができる。  【授業内容】 ・ユマニチュード			14	【到達目標】 後期のまとめと試験対策  【授業内容】 ・13回分の振り返り		
7	【到達目標】 認知症の方へのアプローチについて考えることができる。  【授業内容】 ・認知症ケアマッピング ・回想法			15	【到達目標】  【授業内容】 定期テスト		
8	【到達目標】 中間テストを行い前半7回分の理解を深める  【授業内容】 中間テストと解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	生活支援技術Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	月曜:窪田、田村、保住 火曜日:田村
	Nursing care skillsⅡ	授業 形態	演習	総単位 時間	90時間	開講区分	前期
学科・コース	介護福祉士科					曜日・時間	月曜1,2限/3,4限 火曜3限/4限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
介護福祉士として、就業した講師、専任教員が技術、知識を学生に還元し、プロの介護福祉士の育成を行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
自分も相手も大切にする介護サービスを学ぶ。介護福祉士の介護技術や気遣いの理由を知り、何故、なんでという根拠を理解することが、相手の立場に立った優しい介護になることを学習する。介護は生活であり、生きていく中で誰もが関係していくことになる。人間らしい生活をするために、多くの人と関わること、多くの人で1人を支える重要さを学ぶ。							
【到達目標】							
・『相手も自分も大切にする介護』をするためには、すべてにおいて根拠があることを理解し、知識・技術を習得し説明する能力が身に着けることができる。 1次実習に向かい実際介護をすることを想定して、より現場に近い介護技術・知識を習得することができる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規) 見て覚える!介護福祉士国家試験ナビ(中央法規)				次回授業に関係あるキーワードをいくつかTeamsで知らせ自分なりに調べてTeamsで解答してもらおう。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	<b>【到達目標】</b> ①介護実習室の使用法と実技実習授業のルールを知る ②生活支援技術の進み方と介護職として感染予防の大切さを理解する <b>【授業内容】</b> ①実習室の使用法とオリエンテーション ②オリエンテーション・感染予防の意義目的が理解できる			9	<b>【到達目標】</b> ①外出して実際の道での車いす介助の注意点を知る ②介護の専門用語を学び、多職種連携できる知識をつける <b>【授業内容】</b> ①車いすで外出をし段差・坂道等を体験する ②体位の名称を学ぶ		
2	<b>【到達目標】</b> ①感染予防の重要性、実践に向けた感染症対策を知る ②介護はパワーでなくコツであることを学ぶ(ボディメカニクスや福祉用具) <b>【授業内容】</b> ①手洗い・うがい、手袋、マスク等、介護現場での感染症対策の実践 ②ボディメカニクスを学ぶ			10	<b>【到達目標】</b> ①お互い負担のない介助方法で寝ている姿勢から起きる動作を学ぶ ②移動介助が必要な方はどのような方でどんな介助が必要なのか考える <b>【授業内容】</b> ①仰臥位から立位までの動作 ②体位変換の重要性と廃用性症候群について学ぶ(P26-27)		
3	<b>【到達目標】</b> ①介護はパワーでなくコツであることを実践で学ぶ ②身じたくとは?身じたくを整えることの大切さ、心とのつながりを知る <b>【授業内容】</b> ①ボディメカニクスを実践する ②身じたくとは、何か?身じたくが整ってないときの心理状況を考える			11	<b>【到達目標】</b> ①お互い負担の少ない移乗介助は安全安心にもつながることを学ぶ ②歩行介助が必要な方はどのような用具が安全に繋がるか知る <b>【授業内容】</b> ①移乗介助(スライディングボードやリフト等の使用も) ②歩行介助の方法を学ぶ(P29-30)		
4	<b>【到達目標】</b> ①清潔であることの重要さと介護職としての気遣い知識を学ぶ ②洋服を着ること、選ぶことの大切さを考える <b>【授業内容】</b> ①ベッド周りを整える(シーツ交換)、口腔ケア(歯磨きの介助) ②どんな生地の洋服が、肌にはいいのか学ぶ			12	<b>【到達目標】</b> ①杖歩行、ピックアップ歩行器等の介助方法を学ぶ ②視覚障害者の方が地域で暮らす環境を学ぶ <b>【授業内容】</b> ①杖歩行、ピックアップ歩行器等(装具の装着方法含む) ②視覚障害者の方の介助方法を学ぶ		
5	<b>【到達目標】</b> ①より簡単に着替える方法を知る ②自分で着替えることの大切さを学ぶことができる <b>【授業内容】</b> ①前開き、かぶりの洋服の着替え ②麻痺の種類を学ぶ、利用者さんに合わせた着替え			13	<b>【到達目標】</b> ①実際に視覚障害者の方の世界観を少しでも体験する ②自分で動くことの大切さ、動けなくなるリスクを理解する <b>【授業内容】</b> ①視覚障害者の方の介助方法を学ぶ ②褥瘡って何?リスクや予防を学ぶ		
6	<b>【到達目標】</b> ①病気に合わせた着替えの介助方法と自分でも着られる方法を知る ②車いすの名称や気を付けることを学ぶ <b>【授業内容】</b> ①麻痺や疾患に合わせた着替えの方法、気を付けることを学ぶ ②車いすの名称や介助する際の注意体位等を学ぶ			14	<b>【到達目標】</b> ①9回から13回までの授業を振り返り、応用できるよう自ら考える ②9回から13回までの授業を再度確認し、記憶を定着することができる <b>【授業内容】</b> ①事例を用いて、13回の授業を現場で実践できる力をつける ②13回までの授業の復習と整理をする		
7	<b>【到達目標】</b> ①車いす利用者の気持ちと介助方法を学ぶ ②6回までの授業も再度確認し、記憶を定着することができる <b>【授業内容】</b> ①車いすを操作する ②6回までの授業の復習と整理をする			15	<b>【到達目標】</b> これまでの授業を振り返り、試験(筆記試験、技術試験)に臨むことができる <b>【授業内容】</b> 定期試験(実技試験・筆記試験)		
8	<b>【到達目標】</b> これまでの授業を振り返り、試験(筆記試験、実技試験)に望むことができる <b>【授業内容】</b> 中間試験(技術試験・筆記試験)			<b>【評価について】</b> 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							
①が実技(地下介護室で行う)授業、 ②が座学(教室で行う)授業							

科目名 (英)	生活支援技術Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	月曜:窪田、田村、保住 火曜日:田村
	Nursing care skills Ⅱ	授業 形態	演習	総単位 時間	90時間	開講区分	前期
学科・コース	介護福祉士科					曜日・時間	月曜1,2限/3,4限 火曜3限/4限

**【実務経験】**(担当する授業科目に関連した実務経験)  
 介護福祉士として、就業した講師、専任教員が技術、知識を学生に還元し、プロの介護福祉士の育成を行う。  
**【授業の学習内容】**(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)  
 自分も相手も大切する介護サービスを学ぶ。介護福祉士の介護技術や気遣いの理由を知り、  
 何故、なんでという根拠を理解することが、相手の立場に立った優しい介護になることを学習する。  
 介護は生活であり、生きていく中で誰もが関係していくことになる。人間らしい生活をするために、多くの人と関わること、多くの人で1人を支える重要性を学ぶ。

**【到達目標】**  
 利用者に合わせた介助方法を相手の立場に立って考えることができる  
 介助方法は多種多様であることを理解し、様々やり方があり自分に合った方法を考えることができる  
 2次実習に向けて実践力を付ける

**【使用教科書・教材・参考書】**  
 介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規)  
 見て覚える!介護福祉士国家試験ナビ(中央法規)

**【授業外における学習】**  
 自ら学習して授業の際には、それを発揮する場になる授業方法となる  
 学習を身に付けられるような、学習方法を考え実践することが必要

回	授業概要	回	授業概要
1	<b>【到達目標】</b> ①前期の授業を振り返り事例検討できる ②食べることの喜びとリスクを知ることができる <b>【授業内容】</b> ①事例展開を行う ②オリエンテーション・食事を食べるとはを考える	9	<b>【到達目標】</b> ①羞恥心を守りながら、安全にトイレ・ポータブルトイレ介助することができる ②排泄する大切さを知ることができる <b>【授業内容】</b> ①トイレ・ポータブルトイレ介助することができる ②便秘や頻尿に関して介助の注意点を学ぶ
2	<b>【到達目標】</b> ①食事の介助をするときに注意点や観察することを学ぶことができる ②食事を食べることの楽しみ、リスクを考えることができる <b>【授業内容】</b> ①食事のセッティング、おいしい食事提供方法(マナー)、食事介助 ②利用者の状態に応じた食事介助の留意点	10	<b>【到達目標】</b> ①オムツ交換をされる人の気持ち、オムツに排泄する気持ちを知る ②トイレが理解できなくなるとどのようなリスクがあるか学ぶ <b>【授業内容】</b> ①オムツ交換を行う ②排泄の一連の流れを学ぶ
3	<b>【到達目標】</b> ①ベッド上で食事をする状態とは?どのような気持ちか理解することができる ②お風呂に入る意味って?何? <b>【授業内容】</b> ①ベッド上での食事介助 ②お風呂に入ることの喜びやリスクを知る	11	<b>【到達目標】</b> ①排泄介助の場면을現場の事例を用いながら、臨機応変な対応を考える ②看取るとは?を時代背景と共に考えることができる。 <b>【授業内容】</b> ①排泄介助の場면을現場の事例を用いながら介助方法を考える ②看取りとは?を考える
4	<b>【到達目標】</b> ①手浴・足浴の技術の習得 ②利用者さんの状態に合わせたお風呂介助を学ぶことができる <b>【授業内容】</b> ①手浴・足浴・洗髪(ケリーパッドの作成)の部分浴介助技術の実践 ②清拭ってなに?	12	<b>【到達目標】</b> ①ベッド上での介助が必要な方とは?リスクを考えながら介助を行う ②看取りの際の苦痛緩和に関して学ぶことができる <b>【授業内容】</b> ①ベッド上のシーツ交換 ②苦痛緩和を学ぶ
5	<b>【到達目標】</b> ①清拭の介助技術を習得 ②入浴の時のリスクを学ぶことができる <b>【授業内容】</b> ①お風呂に入れない利用者さんを綺麗になっていただくために ②病気がある方のお風呂介助で気を付けることを学ぶ	13	<b>【到達目標】</b> ①安全にベッド上での着脱、浴衣をすることができる ②人を看取る側、看取られる側の気持ちを考えることができる <b>【授業内容】</b> ①ベッド上での着脱、浴衣の交換 ②リメンバーミーを見ながら介護としてできることを考える
6	<b>【到達目標】</b> ①実際に入浴を体験して介助される側の気持ちを理解する ②排泄をするってどれだけ大切な? <b>【授業内容】</b> ①入浴介助方法を学ぶ(AM:男子・PM:女子) ②排泄の意味を考える	14	<b>【到達目標】</b> ①9回から13回までの授業を振り返り、応用できるよう自ら考える ②9回から13回までの授業を再度確認し、記憶を定着することができる <b>【授業内容】</b> ①13回の授業を現場で実践できる力をつける ②13回までの授業の復習と整理をする
7	<b>【到達目標】</b> ①6回までの授業を振り返り、応用できるよう自ら考える ②6回までの授業も再度確認し、記憶を定着することができる <b>【授業内容】</b> ①6回までの授業を現場で実習する力をつける ②6回までの授業の復習と整理をする	15	<b>【到達目標】</b> これまでの授業を振り返り、試験(筆記試験、技術試験)に臨むことができる <b>【授業内容】</b> 定期試験(実技試験・筆記試験)
8	<b>【到達目標】</b> これまでの授業を振り返り、試験(筆記試験、実技試験)に望むことができる <b>【授業内容】</b> 中間試験(技術試験・筆記試験)	<b>【評価について】</b> 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価	

**【特記事項】**

科目名 (英)	こころを支える心理学 Psychology that supports the mind	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	柳 忠宏
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 1限
【実務経験】 臨床心理士、公認心理師。中学・高等学校の教諭として12年の教育臨床経験がある。専門学校のスクールカウンセラーとして、9年の心理臨床経験がある。							
【授業の学習内容】 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を学習する。 介護実践にかかわるカウンセリングの知識や心の病気について、体系的に学習する。 内省やグループワークの機会を設ける中で、一人ひとりが自己理解と他者理解を深化させ、チームマネジメントの基礎を学び、介護実践場面での素養を醸成する。							
【到達目標】 対人援助職としてのカウンセリング・マインドの重要性を理解する。 カウンセリングの仕組みを理解し、コミュニケーション活動や援助に役立てる。 「障がい」「心の病気」の考え方、捉え方を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】 教員が資料を提示する。				【授業外における学習】 心理学の専門用語が出てくるので、分からない用語はネット検索を用いてもよい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 カウンセリング技法を理解する  【授業内容】 オリエンテーション、カウンセリング技法1			9	【到達目標】 心理テストを理解する1  【授業内容】 心理テスト1		
2	【到達目標】 カウンセリング技法を理解する  【授業内容】 カウンセリング技法2			10	【到達目標】 心理テストを理解する2  【授業内容】 心理テスト2		
3	【到達目標】 カウンセリング技法を理解する  【授業内容】 カウンセリング技法3			11	【到達目標】 心理テストを理解する3  【授業内容】 心理テスト3		
4	【到達目標】 カウンセリング技法を理解する  【授業内容】 カウンセリング技法4			12	【到達目標】 コミュニケーションスキルを理解する(認知行動療法)  【授業内容】 認知行動療法1		
5	【到達目標】 心の病気を理解する  【授業内容】 心の病気			13	【到達目標】 コミュニケーションスキルを理解する(認知行動療法)  【授業内容】 認知行動療法2		
6	【到達目標】 心の病気や障がいを理解する。  【授業内容】 心の病気や障がい			14	【到達目標】 コミュニケーションスキルを理解する(認知行動療法)  【授業内容】 認知行動療法3		
7	【到達目標】 アートセラピーを理解する  【授業内容】 アートセラピー1			15	【到達目標】 カウンセリングのまとめをする  【授業内容】 カウンセリング総括、定期試験		
8	【到達目標】 アートセラピーを理解する、途中経過のおさらいをする  【授業内容】 アートセラピー2、中間試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 板書したこと等は必ずメモをとること。							

科目名 (英)	介護過程 Care Work Process	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	田母神 由美
	学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間

【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)  
 高齢者施設(入所、通所、在宅)や障害者施設(共同生活支援、就労支援、相談業務)など35年以上の実務経験をもち現在も現場で支援を行っている。

【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)  
 介護が必要とされる対象者自身が【望む生活】、【よりよい人生】を実現するため、専門的知識を活用し生活上の課題解決に向けて取り組むプロセスを学ぶ科目である。担当教員が実際に日常で起きている様々な事例や知識を生かし伝えることで、何を考えどのような生活を送りたいのかなど、相手の想いに寄り添い状態に合わせた自立支援の方法を理解してほしい。

【到達目標】  
 ・介護過程の目的、意義を理解することができる。  
 ・介護過程を展開する一連のプロセスを理解することができる。  
 ・介護過程を展開するための情報共有の方法や各職種の役割を理解することができる。

【使用教科書・教材・参考書】	【授業外における学習】
・介護福祉士養成講座9「介護過程」 中央法規	専門的用語や小テストの内容など習得できているかを確認し授業に備える。

回	授業概要	回	授業概要
1	<p>【到達目標】 介護になぜ介護過程が必要なのか、相手を知ることの大切さを理解することができる</p> <p>【授業内容】 介護過程の意義と目的</p>	9	<p>【到達目標】 ICF の考え方を活用した情報収集の方法を理解し、記載方法を理解することができる</p> <p>【授業内容】 ICFの活用方法 事例①</p>
2	<p>【到達目標】 生活状態を知ることに必要な情報収集とは何かを学び、全体像の仕組みを理解することができる</p> <p>【授業内容】 介護過程の全体像</p>	10	<p>【到達目標】 情報収集した内容を整理する方法を理解することができる</p> <p>【授業内容】 ICFの活用方法 事例②</p>
3	<p>【到達目標】 生活は現時点だけではなく、過去の生活の上に成立ち、現在の延長線上に未来がある、自分らしく生きる意味を理解できる</p> <p>【授業内容】 生活支援における介護過程の必要性</p>	11	<p>【到達目標】 アセスメントとは何かを理解し、望む生活を実現するための方法を理解することができる</p> <p>【授業内容】 アセスメントの視点</p>
4	<p>【到達目標】 書式の名称や記載内容を確認し理解することができる</p> <p>【授業内容】 介護福祉分野で使用する書式①</p>	12	<p>【到達目標】 生活像からイメージを描き、アセスメントの視点を整理し関連づける方法を理解することができる</p> <p>【授業内容】 アセスメントの実際</p>
5	<p>【到達目標】 書類の種類を整理、理解し実際に記述することができる</p> <p>【授業内容】 介護福祉分野で使用する書式②</p>	13	<p>【到達目標】 情報収集した内容を整理し記載する方法を理解することができる</p> <p>【授業内容】 情報の解釈・統合化</p>
6	<p>【到達目標】 記載情報を確認し共通理解する大切さを理解することができる</p> <p>【授業内容】 介護福祉分野で使用する書式③</p>	14	<p>【到達目標】 自立、快適、安全の部分にどのような生活課題が生じているのかを検討し理解することができる</p> <p>【授業内容】 生活課題の明確化</p>
7	<p>【到達目標】 介護過程の展開を示す4つのプロセス、それぞれの意味を理解することができる</p> <p>【授業内容】 介護過程の展開</p>	15	<p>【到達目標】 前期の授業で学んだ理解度を確認し、不明な点は再度確認する</p> <p>【授業内容】 定期試験・前期授業の振り返り</p>
8	<p>【到達目標】 介護過程の必要性、仕組みを理解することができる</p> <p>【授業内容】 介護過程のまとめ・中間テスト</p>		<p>【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価</p>

【特記事項】

科目名 (英)	介護過程	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	田母神 由美
	Care Work Process	授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 1限・2限
学科・コース	介護福祉士科						

【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)  
 高齢者施設(入所、通所、在宅)や障害者施設(共同生活支援、就労支援、相談業務)など35年以上の実務経験をもち現在も現場で支援を行っている。

【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)  
 介護が必要とされる対象者自身が【望む生活】、【よりよい人生】を実現するため、専門的知識を活用し生活上の課題解決に向けて取り組むプロセスを学ぶ科目である。担当教員が実際に日常で起きている様々な事例や知識を生かし伝えることで、何を考えどのような生活を送りたいのかなど、相手の想いに寄り添い状態に合わせた自立支援の方法を理解してほしい。

【到達目標】  
 ・介護過程の目的、意義を理解することができる。  
 ・介護過程を展開する一連のプロセスを理解することができる。  
 ・介護過程を展開するための情報共有の方法や各職種役割を理解することができる。

【使用教科書・教材・参考書】 ・介護福祉士養成講座9「介護過程」 中央法規	【授業外における学習】 専門的用語や小テストの内容など習得できているかを確認し授業に備える。
--	---

回	授業概要	回	授業概要
1	<p>【到達目標】 個別ケアの提供における介護計画の立案方法について学び、記述方法を理解することができる</p> <p>【授業内容】 介護計画の立案① 様式1</p>	9	<p>【到達目標】 ケアマネジメントの理念や目的、構成要素について学び、全体像を理解することができる</p> <p>【授業内容】 介護過程とケアマネジメントの重要性 事例Aさん 様式1</p>
2	<p>【到達目標】 介護計画における介護目標の必要性和設定方法について理解することができる</p> <p>【授業内容】 介護計画の立案② 様式1</p>	10	<p>【到達目標】 個別援助計画はケアプランを受けて、その目標を達成するためにより具体的で専門的な計画を立案する方法を理解することができる</p> <p>【授業内容】 ケアプランと個別援助計画の関係性 事例Aさん 様式1</p>
3	<p>【到達目標】 5W1Hについて確認し記述方法を理解することができる</p> <p>【授業内容】 介護計画の立案③ 様式1</p>	11	<p>【到達目標】 チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解し、連携が必要な他職種について理解することができる</p> <p>【授業内容】 チームアプローチの意義 事例Aさん 様式2</p>
4	<p>【到達目標】 介護過程における実施の意義と留意点を理解することができる</p> <p>【授業内容】 介護の実施 様式2</p>	12	<p>【到達目標】 様々な福祉現場で他職種との連携がどのような場面で必要かを考え、チームアプローチの必要性を理解することができる</p> <p>【授業内容】 チームアプローチの実際 事例Aさん 様式2</p>
5	<p>【到達目標】 介護の実践の場において、実践の証明として貴重な業務である記録について理解することができる</p> <p>【授業内容】 記録の実施 様式2</p>	13	<p>【到達目標】 情報収集やアセスメントを行う際の留意点などを理解することができる</p> <p>【授業内容】 事例Aさん 様式2 まとめ</p>
6	<p>【到達目標】 支援することにより生活課題が解決に向かっているのかを確認する方法を理解することができる</p> <p>【授業内容】 1次実習に向けて 評価の意義と目的 様式2</p>	14	<p>【到達目標】 実習時に作成する書式を再確認し記載方法を理解することができる</p> <p>【授業内容】 2次実習に向けての確認</p>
7	<p>【到達目標】 心身状態を観察する方法を理解し、情報を共有する介護チームとの連携の重要性を理解することができる</p> <p>【授業内容】 1次実習の振り返り 介護過程の展開 様式2 事例Aさん</p>	15	<p>【到達目標】 後期の授業で学んだ理解度を確認し、不明な点は再度確認する</p> <p>【授業内容】 定期試験・後期授業の振り返り</p>
8	<p>【到達目標】 介護過程の必要性、仕組みを理解することができる</p> <p>【授業内容】 介護過程のまとめ・中間テスト 事例Aさん</p>		<p>【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価</p>

【特記事項】

科目名 (英)	生活支援技術 I Nursing care skills I	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	保住 恵理
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 3限・4限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務) 介護福祉士として特養9年間、有料で2年間、現場で経験。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 福祉施設での経験から地域で暮らす高齢者・障害者、施設生活の方が尊厳を保持し、その人らしい自立・自律を尊重し個別のニーズに対応できる安心のある生活支援となる知識・技術を学ぶ。生活支援の意義や目的、ICFの視点、生活を多角的に支えるための多職種との連携チームアプローチのあり方を学ぶ。自立に向けた居住環境、家事、福祉用具の基礎知識・技術を学ぶ。災害時における生活支援や、緊急時対応、応急手当の基礎知識・技術を学ぶ。							
【到達目標】 ・目指す介護福祉士としての感性を持って、個性を理解した介護実践に活かすことができる基礎的な知識・技術を学ぶことができる。 ・ICFの視点で利用者を捉え、自立に向けた生活支援、その人らしさの個性を理解することができる。 ・家事支援を行うための基礎知識と、多職種の役割を理解することができる。 ・高齢者に起こりやすい事故と予防、緊急時対応ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規) 見て覚える！介護福祉士国試ナビ(中央法規)				【授業外における学習】 コマシラスに記載しているワークブック、国試ナビの該当ページを読み、予習する。授業後は小テスト、プリントで復習を行い覚えておく。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 生活支援の基本的な考えを理解することができる。  【授業内容】 介護福祉士としてその人の生活を理解し、その人らしさの自己決定や生活の質を高める支援を考える			9	【到達目標】 住み慣れた地域での継続した生活の重要性を理解することができる。 快適な室内環境の整備について理解することができる。  【授業内容】 快適な室内環境を整備するための基本的事項と、加齢変化に伴う注意点について		
2	【到達目標】 生活支援のポイントや、心身の状態に応じた生活支援を理解することができる。  【授業内容】 生活を、継続していく為の自立の支援、自己決定を尊重、潜在能力を引き出す支援等について			10	【到達目標】 安全に暮らす為の生活環境整備と災害時に対する備えを理解することができる。  【授業内容】 日常生活が安全に過ごすことのできる重要性を捉えた住宅改修 火災・地震などの非常時に対する備えについて		
3	【到達目標】 ICFの視点をもって利用者を理解することができる。  【授業内容】 ICFの視点で利用者を見て、個性を理解し、その人にあった介護 を実践する重要性について			11	【到達目標】 地域包括ケアシステムを理解しノーマライゼーションの理念を理解し環境整備を考えることができる。  【授業内容】 住宅のバリアフリー、ユニバーサルデザイン、ノーマライゼーション、地域包括ケアシステム等について		
4	【到達目標】 利用者主体の実践に向け、利用者尊重の自立支援を理解することができる。  【授業内容】 利用者が安心できる支援の対応方法と、その人を知る観察の重要性を学び、利用者主体の介護について			12	【到達目標】 居住環境整備にかかわる職種とその役割、チームケアのあり方を理解することができる。  【授業内容】 多職種の役割りと介護福祉職との連携を事例を通して考える		
5	【到達目標】 生活支援におけるチームアプローチの重要性を理解することができる。  【授業内容】 チームアプローチにかかわる職種、役割、連携についてライフステージと、チームアプローチについて			13	【到達目標】 福祉用具を使用する意義を理解し、その人らしい生活への役割りに繋げることを理解することができる。  【授業内容】 それぞれの福祉用具の特徴や、日常生活の自立を支援する等、公的制度におけるサービスの理解		
6	【到達目標】 住まいの役割、居住環境整備の意義と目的を理解する。  【授業内容】 住まいの役割とADLに適した居住環境整備の必要性在宅生活、施設生活の環境			14	【到達目標】 福祉用具の種類と環境整備について理解することができる。  【授業内容】 福祉用具のリスクとリスクマネジメント・福祉用具を選ぶためのアセスメントとモニタリングの視点について		
7	【到達目標】 衣服の縫製・被服のアイロン掛け支援の知識と実践を行うことができる。  【授業内容】(演習) 実習用スポンの裾上げをして快適な履き心地を実感する 快適な室内環境を整備するための基本的事項と、加齢変化に伴う注意点について			15	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返り、問題に答えることができる。わからない問題は今後の課題とし、復習する。  【授業内容】 これまでの授業の振り返り、定期試験、解答解説		
8	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返り問題に答えることができる。わからない問題から、今後の学びの課題とし意欲を持って復習する。  【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 介護、福祉関連の情報を新聞やネット等で関心を持っていて欲しい。 配布資料は、保管すること。							

科目名 (英)	生活支援技術 I Nursing care skills I	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	保住 恵理
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 3限・4限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 介護福祉士として特養9年間、有料で2年間、現場で経験。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 福祉施設での経験から地域で暮らす高齢者・障害者、施設生活の方が尊厳を保持し、その人らしい自立、自律を尊重し個別のニーズに対応できる安心のある生活支援となる知識・技術を学ぶ。生活支援の意義や目的、ICFの視点、生活を多角的に支えるための多職種との連携チームアプローチのあり方を学ぶ。自立に向けた居住環境、家事、福祉用具の基礎知識・技術を学ぶ。災害時における生活支援や、緊急時対応、応急手当の基礎的知識・技術を学ぶ。							
【到達目標】 ・目指す介護福祉士としての感性を持って、個性を理解した介護実践にいかすことができる基礎的な知識・技術を学ぶ。 ・ICFの視点で利用者を捉え、自立に向けた生活支援、その人らしさの個性を理解することができる。 ・家事支援を行うための基礎知識と、多職種の役割を理解することができる。・高齢者に起こりやすい事故と予防、緊急時対応ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規) 見て覚える！介護福祉士国試ナビ(中央法規)				【授業外における学習】 コマシラバスに記載しているワークブック、国試ナビの該当ページを読み、予習する。授業後は小テスト、プリントで復習を行い覚えておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 介護保険制度の中でできる家事支援の理解。自立に向け、介護福祉士としてすべきことを理解することができる。 【授業内容】 家事的流れの中でその人が何ができて、何ができないのかICFの考えで捉え、訪問介護サービス等考える			9	【到達目標】 高齢者に起こりやすい主な事故とその予防の視点を理解することができる。緊急時における連携のあり方を知る。 【授業内容】 想定される事故と予防について・対象者への対応、判断に迷った場合について		
2	【到達目標】 利用者の好みを尊重し、調理支援での基本と留意点を知ることができる。 【授業内容】 食事がその人にとって生活全般に影響があること、豊かな生活の大切な支援であることや調理の留意事項を知る			10	【到達目標】 介護職が行う応急手当のポイントを習得することができる。 【授業内容】 外傷・傷による出血した際の止血処置、骨折と疑われる症状の手当てについて・窒息、気道内遺物除去の緊急手当て等について		
3	【到達目標】 洗濯支援の基本、社会問題となっているごみ問題等に気付いて支援できる重要性を理解することができる。 【授業内容】 在宅生活での生活支援洗濯、掃除、ごみ捨ての意義、介助について支援からの状態変化に気付く観察力について			11	【到達目標】 災害時の支援、被災地で活動する際の心構えや、活動前に知っておくべきことを理解することができる。 【授業内容】 災害直後生活支援の重要性、支援者としてのあり方について		
4	【到達目標】 ICFの視点に基づく衣類、寝具の衛生管理と整理整頓の支援について理解できる。 【授業内容】 利用者の好みを尊重した支援を考える。衣類の廃棄、季節に適した衣替えの必要性・たたんでしまう支援について			12	【到達目標】 災害時(物資が不足している中)に介護福祉士が活動する場所での問題解決に向け実践できる知識を学ぶことができる。 【授業内容】 避難場所について、災害種別図記号、食事、排泄、睡眠、居住環境支援について		
5	【到達目標】 ICFに基づく買物の支援について理解することができる。 【授業内容】 在宅生活・施設生活での買物の意義と支援について			13	【到達目標】 災害時支援体制が整ってきた後の知識、工夫、配慮等介護福祉士としての支援ができる知識を学ぶことができる。 【授業内容】 対象者の状態・状況に応じた環境整備、プライバシー確保、テッドスペース活用等について		
6	【到達目標】 家庭経営、家計の管理について理解することができる。 【授業内容】 金銭管理が困難な状況になった時自治体などへつなぐ支援の対応策について・最近の消費者問題等について			14	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返りながら、知識を深める。求められる介護福祉士を理想とすることができる。 【授業内容】 施設での事例から、めざす・理想とする介護福祉士を考え共感できることで振り返る		
7	【到達目標】 家事的介護における多職種の役割と介護職との連携のあり方を理解することができる。 【授業内容】 在宅生活・施設入居それぞれ多職種との連携の重要性について			15	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返り、問題に答えることができる。わからない問題は今後の課題とし、復習する。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、定期試験、解答解説		
8	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返り問題に答えることができる。わからない問題から、今後の学びの課題とし意欲を持って復習する。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 普段の生活の中で見かける表示や図記号に関心を持って欲しい。 配布資料は保管すること。							

科目名 (英)	人間関係とコミュニケーション Relationships and Communication	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	田嶋知美
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 特別養護老人ホームにて約7年介護職員として働き、その他にデイサービスや訪問マッサージ等での実務経験を持つ。現在は機能訓練指導員としてデイサービスに勤務。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 介護職による支援は利用者又多職種との関係づくりから始まります。上記の実務経験を活かし、ここでは人間を多面的に理解することを基盤に、他者との関係づくりのために必要なコミュニケーションや、介護実践におけるチームマネジメントについて学びます。							
【到達目標】 コミュニケーションについて知識と理解を深め、利用者に対してあるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力やチームマネジメントを学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】 「介護福祉士国家試験ワークブック」中央法規 「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」中央法規				【授業外における学習】 聞きなれない用語等は予習をし、授業後は配布資料をもとに復習を行う。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【到達目標】 お互いの自己紹介を行いコミュニケーションを図る 介護とは人間らしさの象徴であることを理解する 【授業内容】 ・オリエンテーション ・人間らしさのはじまり			9	【到達目標】 人間関係の発展や後退とコミュニケーションのあり方について学ぶ 【授業内容】 ・対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション		
2	【到達目標】 人間関係のなかで自分と他者を理解することを学ぶ 【授業内容】 ・自分を形成する2つの要素 ・自分を理解するとは			10	【到達目標】 対人援助を展開していくための援助的人間関係を形成していく基本を学ぶ 【授業内容】 ・対人援助における基本的態度		
3	【到達目標】 人間関係のなかで自分と他者を理解することを学ぶ 【授業内容】 ・他者を理解するとは			11	【到達目標】 介護福祉士が援助関係を形成していく際の基本的な方法について学ぶ 【授業内容】 ・援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則		
4	【到達目標】 人の発達にともなう、人間関係の広がり学ぶ 人はどのように他者や集団と関わりながら成長するのかを学ぶ 【授業内容】 ・発達心理学や社会心理学からみた人間関係			12	【到達目標】 組織の存在とコミュニケーションの特徴や組織における情報の流れを理解する 【授業内容】 ・組織の条件とコミュニケーションの特徴 ・組織における情報の流れ		
5	【到達目標】 人間関係の形成や発展におけるストレスについて学び、適切に対処する方法を身につける 【授業内容】 ・人間関係とストレス			13	【到達目標】 組織においてどのようなコミュニケーションが求められるかを学ぶ 【授業内容】 組織において求められるコミュニケーション		
6	【到達目標】 ・コミュニケーションの特性や構造について学ぶ 【授業内容】 ・コミュニケーションの概念と基本構造			14	【到達目標】 組織とそこでのコミュニケーションの特徴について考える アイデアを出し合うためにブレインストーミングを体験する 【授業内容】 組織のコミュニケーションについて—ブレインストーミング		
7	【到達目標】 言語的コミュニケーションや非言語的コミュニケーションについて学ぶ 【授業内容】 ・コミュニケーションの手段			15	【到達目標】 これまでの授業を振り返り学習を深め、問題に答えることができる。 分からない問題を洗い出し、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、期末試験、解答解説		
8	【到達目標】 これまでの授業を振り返り学習を深め、問題に答えることができる。 分からない問題を洗い出し、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 重要なポイントは必ずメモをとること。 配布資料を振り返りに活用すること。							

科目名 (英)	人間関係とコミュニケーション Relationships and Communication	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	田嶋知美
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後学期 水曜 2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 特別養護老人ホームにて約7年介護職員として働き、その他にデイサービスや訪問マッサージ等での実務経験を持つ。現在は機能訓練指導員としてデイサービスに勤務。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 介護職による支援は利用者とは多職種との関係づくりから始まります。上記の実務経験を活かし、ここでは人間を多面的に理解することを基盤に、他者との関係づくりのために必要なコミュニケーションや、介護実践におけるチームマネジメントについて学びます。							
【到達目標】 コミュニケーションについて知識と理解を深め、利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力やチームマネジメントを学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】 「介護福祉士国家試験ワークブック」中央法規 「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」中央法規				【授業外における学習】 聞きなれない用語等は予習をし、授業後は配布資料をもとに復習を行う。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 介護サービスはサービスとしての特性をもつことを理解し、ヒューマンサービスである介護サービスとほかのサービスとの相違点を学ぶ 【授業内容】 ・ヒューマンサービスとしての介護サービス			9	【到達目標】 キャリアに求められる実践力、チームケアのために必要な実践力とは何かを学ぶ 【授業内容】 ・介護福祉職のキャリアと求められる実践力		
2	【到達目標】 介護実践にチームマネジメントが必要とされる背景を理解する 【授業内容】 ・介護現場で求められるチームマネジメント			10	【到達目標】 キャリアに求められる実践力、チームケアのために必要な実践力とは何かを学ぶ 【授業内容】 ・介護福祉職としてのキャリアデザイン		
3	【到達目標】 介護実践におけるチームマネジメントの基本となる考え方を理解する 【授業内容】 ・介護実践におけるチームマネジメントの取り組み			11	【到達目標】 実践力を向上させるために必要なOJT,Off-JTをはじめとする人材育成のしくみを学ぶ 【授業内容】 ・介護福祉職のキャリア支援、開発		
4	【到達目標】 介護サービスとその他の仕事の違いや様々なチームをつくる目的や効果について考える 【授業内容】 ・介護サービスと他の仕事の違い ・ケアを展開する様々なチームについて			12	【到達目標】 自身のキャリアを想定した自己研鑽のあり方、姿勢について学ぶ 【授業内容】 ・自己研鑽に必要な姿勢		
5	【到達目標】 ケアを展開するためのチームのあり方や機能について学ぶ 【授業内容】 ・ケアを展開するために必要なチームとその取り組み			13	【到達目標】 質の高い介護サービスは組織的に支えられていることを理解する 組織がどのような役割、機能をはたしているのかを学ぶ 【授業内容】 ・介護サービスを支える組織の構造、機能、役割		
6	【到達目標】 チームでケアを展開するために必要な取り組みについて学ぶ 【授業内容】 ・チームでケアを展開するためのマネジメント			14	【到達目標】 組織がどのような構造なのか、どのように管理されているかを学ぶ 【授業内容】 ・介護サービスを支える組織の管理		
7	【到達目標】 チームの力を最大化するためのリーダーシップ、フォロワーシップについて学ぶ 【授業内容】 ・チームの力を最大化するためのマネジメント			15	【到達目標】 これまでの授業を振り返り学習を深め、問題に答えることができる。 分からない問題を洗い出し、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、期末試験、解答解説		
8	【到達目標】 これまでの授業を振り返り学習を深め、問題に答えることができる。 分からない問題を洗い出し、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 重要なポイントは必ずメモをとること。 配布資料を振り返りに活用すること。							

科目名 (英)	コミュニケーション技術	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	社会福祉法人 欣彰会 栃木幸子 栗原法子
		授業 形態	必須	総単位 時間	30時間	開講区分	前 期 水 曜 3 限
学科・コース	介護福祉士科						

【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)  
 高齢者施設において、介護職・相談員として20年以上勤務経験あり。現在も特別養護老人ホーム、デイサービスにて在職中。

【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)  
 特別養護老人ホーム・デイサービスにおいて、介護福祉士、相談員、介護支援専門員など担い、20年以上に渡り実務経験を重ね現在に至る。  
 これまでの経験知を踏まえ、介護における基本的なコミュニケーションの意義や目的を理解し、様々なニーズを持った利用者、ご家族、多様な専門職、チーム内の関係構築が図れるように、状態や状況に応じたコミュニケーション、介護実践に必要なコミュニケーションの技術を習得できる学習を行う。

【到達目標】  
 コミュニケーションの意義や援助関係の構築。傾聴、受容、言語、非言語コミュニケーションなど、介護を実践する際の基本となるコミュニケーションについての考え方や技術を習得する。

【使用教科書・教材・参考書】 介護福祉士国試ナビ 2024 中央法規 介護福祉士国家試験受験ワークブック上・下 2024 中央法規	【授業外における学習】 国試ナビワークブックによる予習。配布資料や小テスト等を用いて復習し知識・技術を身に着ける。
---	--

回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
4月17日	【到達目標】 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について知る 1 演習を通して、コミュニケーションの大切さを理解する事ができる。 【授業内容】 オリエンテーション、講義、演習(自己紹介)	6月19日	【到達目標】 介護を必要とする人とのコミュニケーションを学ぶ。利用者の意欲 9:低下のサインと背景を知り、意欲を引き出す方法を学ぶ。 【授業内容】 講義・演習・小テスト
4月24日	【到達目標】 コミュニケーションの過程・手段を学び、言語・非言語・準言語 2 コミュニケーションを理解する事ができる。 【授業内容】 講義・演習・小テスト	6月26日	【到達目標】 介護を必要とする人とのコミュニケーションを学ぶ。利用者の意向と 10:家族の意向が一致するよう支援する方法を学ぶ。 【授業内容】 講義・演習・小テスト
5月8日	【到達目標】 コミュニケーション態度に関する基本技術として、対人距離につ 3 いて、理解する事ができる。 【授業内容】 講義・演習・小テスト	7月3日	【到達目標】 コミュニケーション障害への対応の基本を知る。聴覚・視覚障害が 11 ある人とのコミュニケーションについて理解する。 【授業内容】 講義・演習・小テスト
5月15日	【到達目標】 コミュニケーション態度に関する基本技術として、傾聴の意義と 4 手法を理解する事ができる。 【授業内容】 講義・演習・小テスト	7月10日	【到達目標】 構音障害のある人に対する支援方法を学ぶ。 12:失語症のある人に対する支援方法を学ぶ。 【授業内容】 講義・演習・小テスト
5月22日	【到達目標】 コミュニケーション態度に関する基本技術として、主な傾聴技法 5 を体験する事で、適切な方法を理解する事ができる。 【授業内容】 講義・演習・小テスト	7月17日	【到達目標】 認知症がある人とその家族の日常について理解する事ができる。 13:センター方式、パーソンセンタードケア、ユニマチュードを知る。 【授業内容】 講義・演習・小テスト
5月29日	【到達目標】 援助関係を意識した対象者とのコミュニケーションを理解する。 6 バイスタックの7原則、アサーティブコミュニケーションを知る。 【授業内容】 講義・演習・小テスト	7月24日	【到達目標】 統合失調症のある人とのコミュニケーションの方法や支援方法を 14 知る。 【授業内容】 講義・演習・小テスト
6月5日	【到達目標】 目的別のコミュニケーション技術を学び、モノの見方に変化を生み 7 出す技法を体験し理解を深める(リフレーミング) 【授業内容】 講義・演習・小テスト	7月31日	【到達目標】 前期講義で学習した事の総まとめとして、定期試験問題を解く事 15 ができる。できなかった問題を把握し知識とする事ができる。 【授業内容】 定期試験 解答解説
6月12日	【到達目標】 これまでの講義内容について、試験問題を解く事ができる。 8 できなかった問題を把握し、正しい知識とする事ができる。 【授業内容】 中間テスト 解答と解説	【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点=A評価 点数 89～80点=B評価 点数 79～70点=C評価 点数 69～60点=D評価 点数 59点以下=F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価	

【特記事項】

科目名 (英)	コミュニケーション技術	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	社会福祉法人 欣彰会 栃木幸子 栗原法子
		授業 形態	必須	総単位 時間	30時間	開講区分	後期 曜日・時間水曜 3限

【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)  
 高齢者施設で介護職・相談職として20年以上勤務経験あり。

【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)  
 特別養護老人ホーム・デイサービスにおいて、介護福祉士、相談員、介護支援専門員など担い、20年以上に渡り実務経験を重ね現在に至る。  
 これまでの経験知を踏まえ、介護における基本的なコミュニケーションの意義や目的を理解し、様々なニーズを持った利用者、ご家族、多様な専門職、チーム内の関係構築が図れるように、状態や状況に応じたコミュニケーション、介護実践に必要なコミュニケーションの技術を習得できる学習を行う。

【到達目標】  
 障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する事ができる。  
 介護福祉職は、家族と協働していく支援のパートナーであることを理解し、利用者や家族の意向を円滑に調整する為のコミュニケーション手順を習得する。  
 情報を適切になとめ、発進するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、介護におけるチームコミュニケーションの技術を習得する。

【使用教科書・教材・参考書】 介護福祉士国試ナビ 2024 中央法規 介護福祉士国家試験受験ワークブック上・下 2024 中央法規	【授業外における学習】 国試ナビワークブックによる予習、配布資料や小テスト等を用いて復習し知識・技術を身につける。
---	--

回	授業概要	回	授業概要
	【到達目標】 実習時に利用者お互いに信頼しあい、良好な関係を築く為に 1 ジョハリの窓を活用し、コミュニケーション力を高める。 【授業内容】 講義・演習・小テスト		【到達目標】 介護における、チームコミュニケーションの目的について理解 9: する。 【授業内容】 講義・演習・小テスト
	【到達目標】 チームコミュニケーションについて理解する。記録を介して統一 2 した介護実践の展開ができる事を知る。(目的、種類を知る) 【授業内容】 講義・演習・小テスト		【到達目標】 介護における、チームコミュニケーションの目的について理解 10: する。報告相談連絡の意義と目的、方法を学ぶ。 【授業内容】 講義・演習・小テスト
	【到達目標】 チームコミュニケーションについて理解する。記録を介して統一 3 した介護実践の展開ができる事を知る。(注意点を理解) 【授業内容】 講義・演習・小テスト		【到達目標】 介護における、チームコミュニケーションの目的について理解 11: する。多職種間のコミュニケーション、説明の技術を実践し学ぶ。 【授業内容】 講義・演習・小テスト
	【到達目標】 うつ病、抑うつ状態の人へのコミュニケーションについて知る。 4 援助方法について理解する事ができる。 【授業内容】 講義・演習・小テスト		【到達目標】 介護における、チームコミュニケーションの目的について理解 12: する。会議の種類・会議の進行の技術について学ぶ。 【授業内容】 講義・演習・小テスト
	【到達目標】 自閉症がある人とのコミュニケーションについて知る。 5 援助方法について、理解することができる。 【授業内容】 講義・演習・小テスト		【到達目標】 介護における、チームコミュニケーションの目的について理解 13: する。事故報告書、ヒヤリハット報告の目的を知る。 【授業内容】 講義・演習・小テスト
	【到達目標】 経過記録として、利用者とのやり取りを記録する。プロセス 6 レコードの目的を理解し、実際に作成する事ができる。 【授業内容】 講義・演習・小テスト		【到達目標】 介護における、チームコミュニケーションの目的について理解 14: する。ICTによる情報共有、個人情報保護法について理解する。 【授業内容】 講義・演習・小テスト
	【到達目標】 高次脳機能障害の症状を示すことができる。高次脳機能障害の 7 ある人とのコミュニケーションについて知る。 【授業内容】 講義・演習・小テスト		【到達目標】 後期授業で学習した事の総まとめとして、定期試験問題を解く事 15: ができる。できなかった問題を把握し、知識とする事ができる。 【授業内容】 定期試験 解答解説
	【到達目標】 これまでの講義内容について、試験問題を解くことができる。 8 できなかった問題を把握し、正しい知識とすることができる。、 【授業内容】 中間テスト 解答と解説		【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価

【特記事項】  
 ※第1次実習 10/7～10/18 ※ 第2次実習 1/21～2/19

科目名 (英)	人間の尊厳と自立 Comprehension of Human	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	黒澤 芳恵
	学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間

【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)

【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)

本科目は、介護福祉職としての本質や倫理観を学ぶ基礎的な科目であり、利用者や家族等に対して多面的に理解を深める重要性について考えながら受講してほしい。福祉理念を理解し、人権尊重や権利擁護の考え方を養うとともに、利用者の尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する内容とする。講義での学びとともに個人ワークやグループワーク等の演習も行い、その中で一人ひとりが考え、また互いに意見を交わしながら理解を深めてほしい。

【到達目標】

介護実践のために必要な利用者、家族、多職種等の人間への理解を深め、配慮することができる。  
介護福祉職として、尊厳の保持と自立・自律について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養うことができる。  
人権思想、福祉理念の歴史の変遷を理解し、人権尊重や権利擁護の考え方を身に付けることができる。

【使用教科書・教材・参考書】

・新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」中央法規

【授業外における学習】

教科書やワークブックの次回の範囲を読み、予習をしてくること。また授業後もノ

回	授業概要	回	授業概要
1	<p>【到達目標】 前期の授業の進め方、評価の方法を理解する。 「自分」という人間について表現することができる。</p> <p>【授業内容】 オリエンテーション 「人間を理解すること」の意味とは</p>	9	<p>【到達目標】 介護を必要とする人の生活と人権について理解できる。 専門職として必要な権利擁護の重要性を理解する。</p> <p>【授業内容】 介護における権利擁護と人権尊重 利用者の人権と生活</p>
2	<p>【到達目標】 人間を理解するということの意義について学び、利用者主体の実現に必要な要素を理解できる。</p> <p>【授業内容】 人間の尊厳の意義 利用者主体の考え方</p>	10	<p>【到達目標】 権利侵害(消費被害、ハンセン病など)の実例や実態とその防止について理解できる。</p> <p>【授業内容】 権利侵害の実際① 消費被害、ハンセン病の歴史</p>
3	<p>【到達目標】 世界や日本で人権思想が誕生した経緯を理解できる。 尊厳と自立に関する歴史を理解する。</p> <p>【授業内容】 世界と日本の人権思想の歴史的展開</p>	11	<p>【到達目標】 権利侵害(高齢者虐待など)の実例や実態とその防止について理解できる。</p> <p>【授業内容】 権利侵害の実際② 高齢者虐待</p>
4	<p>【到達目標】 戦前から戦後、現代までの人権や福祉理念の変遷について理解し、介護福祉士としての倫理観との関連を考察することができる。</p> <p>【授業内容】 福祉理念の変遷</p>	12	<p>【到達目標】 自立の概念の多様性を学び、自立とはどのような状態をいうのか表現することができる。</p> <p>【授業内容】 自立のあり方 いろいろな視点からみた自立</p>
5	<p>【到達目標】 現代社会が抱えるさまざまな人権に関する課題を理解し、より人間らしく生きることの意義を考察することができる。</p> <p>【授業内容】 福祉的課題の変遷 貧困、障害、子ども、高齢者に関する人権など</p>	13	<p>【到達目標】 介護を必要とする人の自立と自立支援について理解できる。 自己決定、自己選択の意味を具体的に理解する。</p> <p>【授業内容】 介護における自立支援の理論① インフォームドコンセント、アドボカシー、リビング・ウィルなど</p>
6	<p>【到達目標】 現代における介護、福祉の分野での新たな福祉理念について理解できる。</p> <p>【授業内容】 現代の福祉理念 ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、QOLなど</p>	14	<p>【到達目標】 自立した生活を支えるための視点について理解できる。 事例について考え、クラスで共有できる。</p> <p>【授業内容】 介護における自立支援の理論② 事例検討</p>
7	<p>【到達目標】 社会福祉活動の歴史と背景を学び、さまざまな社会福祉活動家とその活動内容について理解できる。</p> <p>【授業内容】 社会福祉活動の歴史的経緯、意義、活動家について</p>	15	<p>【到達目標】 これまでの授業を振り返り、疑問などを解消し、学習内容をより深めることができる。</p> <p>【授業内容】 授業の振り返りとまとめ、前期試験、解答解説</p>
8	<p>【到達目標】 これまでの授業を振り返り、疑問などを解消し、学習内容をより深めることができる。</p> <p>【授業内容】 授業の振り返りとまとめ、中間試験、解答解説</p>		<p>【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点=A評価 点数 89～80点=B評価 点数 79～70点=C評価 点数 69～60点=D評価 点数 59点以下=F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価</p>

【特記事項】

毎授業において、板書したことやパワーポイント等を必ず記録しましょう。  
事例検討や演習等では、自分の意見の表明や他者への理解をお願いします。

科目名 (英)	介護総合演習 I	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	田村・保住
	Basic nursing care	授業 形態	演習	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 2限
学科・コース							

【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)  
介護福祉士として就業した専任教員として、介護実践に必要な知識・態度を養う学習を行う。

【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)  
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。

【到達目標】  
・介護実習の効果を上げると為、事前に実習する施設や事業所について理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができる。  
・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養うことができる。

【使用教科書・教材・参考書】 実習と記録 介護福祉士編 一般財団法人滋慶教育科学研究所 新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習(参考図書)	【授業外における学習】 実習に関連する情報の管理を適切に行うこと。 実習日誌および実習課題等は期日を守り提出すること。
--	---

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 授業の進め方を理解することができる。介護総合演習で何を学び、実習に向けて準備を主体的に行う意識を培うことができる。 【授業内容】 授業のオリエンテーション 介護総合演習の位置づけと目的	9	【到達目標】 海外のケアを知る 【授業内容】 アジア/北欧/米国などの介護について学ぶ
2	【到達目標】 想像を膨らませることができる 【授業内容】 介護から連想されるワードをたくさん炙り出す 理想の将来像を作る	10	【到達目標】 海外のケアを知る 【授業内容】 まとめて表現する
3	【到達目標】 想像を形にすることができる 【授業内容】 理想の生活を表現する	11	【到達目標】 介護福祉士の仕事の意味/意義について考える 【授業内容】 広い視野で介護の仕事を考える
4	【到達目標】 介護サービスを知る 【授業内容】 在宅系のサービスを知る	12	【到達目標】 介護福祉士の仕事の意味/意義について考える 【授業内容】 広い視野で介護の仕事を考える
5	【到達目標】 介護サービスを知る(介護保険について) 【授業内容】 地域密着型のサービスを知る	13	【到達目標】 第1次実習に向けて準備ができる 【授業内容】 実習はなぜ必要なのか 考える
6	【到達目標】 介護サービスを知る(施設サービス・有料について) 【授業内容】 施設サービスを知る	14	【到達目標】 第1次実習に向けて準備ができる 【授業内容】
7	【到達目標】 介護サービスを知る(在宅サービス・障害系について) 【授業内容】 まとめを表現する	15	【到達目標】 学びの振り返り 【授業内容】 定期試験
8	【到達目標】 学びの振り返り 【授業内容】 中間試験(事例を用いた問題)	【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点=A評価 点数 89～80点=B評価 点数 79～70点=C評価 点数 69～60点=D評価 点数 59点以下=F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)	

【特記事項】

科目名 (英)	介護総合演習 I	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	田村 保住
	Basic nursing care	授業 形態	演習	総単位 時間	30時間	開講区分	後期
学科・コース						曜日・時間	金曜 1限

【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)  
 介護福祉士として就業した専任教員として、介護実践に必要な知識・態度を養う学習を行う。

【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)  
 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。

【到達目標】  
 ・介護実習の効果を上げるため、事前に実習する施設や事業所について理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができる。  
 ・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養うことができる。

【使用教科書・教材・参考書】  
 実習と記録 介護福祉士編 一般財団法人慈慶教育科学研究所  
 新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習(参考図書)

【授業外における学習】  
 実習に関連する情報の管理を適切に行なうこと。  
 実習日誌および実習課題等は期日を守り提出すること。

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 実習 I のねらいと実習モデルについて理解する①  【授業内容】 実習の意味について考える(マナーや服装について) 実習生紹介表の完成	9	【到達目標】 第2次実習の準備ができる  【授業内容】 実習先の発表/2次実習の目的確認 定期/実習生紹介表の作成
2	【到達目標】 実習 I のねらいと実習モデルについて理解する②  【授業内容】 利用者とのコミュニケーションの実際	10	【到達目標】 第2次実習の準備ができる  【授業内容】 実習の意味/理想の介護像振り返り 世の中の介護の動向(福祉新聞などを集める)
3	【到達目標】 実習前の学習を行うことができる①  【授業内容】 日誌の書き方(目標の立て方)	11	【到達目標】 第2次実習の準備ができる  【授業内容】 2次実習をイメージする
4	【到達目標】 実習前の学習を行うことができる②  【授業内容】 日誌の書き方(文章の書き方)	12	【到達目標】 第2次実習の準備ができる一点を線にするー  【授業内容】 事例検討
5	【到達目標】 第2次実習の準備ができる①  【授業内容】 コミュニケーション	13	【到達目標】 第2次実習の準備ができる⑦  【授業内容】 日誌の意味を考える 分野ごとに着眼点などを考える
6	【到達目標】 1次実習の振り返り 2次実習に向けて  【授業内容】 入所施設について知ることができる	14	【到達目標】 第2次実習の準備ができる⑦  【授業内容】 日誌の書き方などを調べ学習
7	【到達目標】 第2次実習の準備ができる  【授業内容】 調べ学習	15	【到達目標】 学びの振り返り  【授業内容】 定期試験
8	【到達目標】 学びの振り返り  【授業内容】 中間試験	【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点=A評価 点数 89～80点=B評価 点数 79～70点=C評価 点数 69～60点=D評価 点数 59点以下=F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)	

【特記事項】

科目名 (英)	介護の基本 I	必修 選択	必修	年次	1年生	担当教員	高橋 亜希子
	Basic nursing care	授業 形態	講義	総単位 時間	60時間	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 3・4 限
学科・コース	介護福祉科						

【実務経験】  
「介護福祉士」として特別養護老人ホームに併設されている「デイサービス」で働いた後、リハビリテーション病院での「看護助手」として現在も就労中

【授業の学習内容】  
介護福祉士の「視点」から、利用者様のニーズにこたえる支援方法を学び、さまざまな解決方法を自ら「考え」「行動」できるよう常に「考える」ことを意識した授業展開を心がけます。また「座学」だけではなく、グループワークや発表を行い「質疑応答」を行うことで、より理解を深める授業にする。

【到達目標】  
①介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての求められる姿勢・態度を身につけよう。  
②介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識を習得しよう。

【使用教科書・教材・参考書】  
「2024介護福祉士国家試験 受験ワークブック 上・下」

【授業外における学習】  
介護に関する専門的な用語についてはあらかじめ予習しておくこと。授業後にも、

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 授業の進め方と評価の方法について理解することができる。 介護を取り巻く環境について捉えられる。 【授業内容】 オリエンテーションの実施 介護業界に求められるニーズや課題について理解する。	9	【到達目標】 自立支援についての考え方が理解できる。 その上で必要なケアの在り方を捉える。 【授業内容】 尊厳を支える介護について② 個別ケアについて
2	【到達目標】 介護が社会問題となっている状況を整理・理解できる。 我が国における介護福祉制度の変遷について理解できる。 【授業内容】 介護福祉士を取り巻く状況①	10	【到達目標】 多職種連携とは何か？その必要性が理解できる。 【授業内容】 IPW・IPEについて
3	【到達目標】 介護福祉士が国家資格となっていく過程を理解できる。 【授業内容】 介護福祉士のを取り巻く状況②	11	【到達目標】 介護福祉士以外の専門職の領域が理解できる。 連携の基本となる知識や視点が理解できる。 【授業内容】 協働する多職種の役割と機能①(看護・リハビリテーション)
4	【到達目標】 多様化する介護福祉士の役割を整理し、具体的にどのような「場」でその力が求められているのかが理解できる。 【授業内容】 介護福祉士の役割と機能	12	【到達目標】 介護福祉士以外の専門職の領域が理解できる。 連携の基本となる知識や視点が理解できる。 【授業内容】 協働する多職種の役割と機能②(ソーシャルワーク)
5	【到達目標】 介護福祉に関連する法制度の概要が理解できる。 【授業内容】 介護福祉に関連する法律について	13	【到達目標】 ICFの概要、ICIDHとの違いが理解できる。 ICFの構成要素が示す意味が理解できる。 【授業内容】 介護福祉の基本原則①
6	【到達目標】 「尊厳」とは何か、「利用者主体」とは何かを理解できる。 【授業内容】 介護福祉の基本となる理念について	14	【到達目標】 対象者が日常生活を維持するために必要な知識を身に付けることができる。ADL・IADL・QOLについて説明できる。 【授業内容】 介護福祉の基本原則②
7	【到達目標】 多様な個性を持つ利用者の尊厳について理解できる。 「尊厳」を大切にしたい関わり方について必要なことを理解できる。 【授業内容】 尊厳を支える介護について①	15	【到達目標】 授業の振り返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 期末試験、解答解説
8	【到達目標】 授業の振り返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説		【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価

【特記事項】

科目名 (英)	介護の基本 I	必修 選択	必修	年次	1年生	担当教員	高橋 亜希子
	Basic nursing care			総単位 時間	60時間		
学科・コース	介護福祉科	授業 形態	講義			曜日・時間	木曜 3・4 限

【実務経験】  
「介護福祉士」として特別養護老人ホームに併設されている「デイサービス」で働いた後、リハビリテーション病院での「看護助手」として現在も就労中

【授業の学習内容】  
介護福祉士の「視点」から、利用者様のニーズにこたえる支援方法を学び、さまざまな解決方法を自ら「考え」「行動」できるよう常に「考える」ことを意識した授業展開を心がけます。また「座学」だけではなく、グループワークや発表を行い「質疑応答」を行うことで、より理解を深める授業にする。

質疑応答  
①介護福祉士に求められる職業倫理や倫理的判断に必要な視点・考え方を理解しよう。  
②地域包括ケアシステムを含む介護(予防)システムを理解しよう。またリハビリテーションの視点から介護福祉士の役割を理解しよう。  
③自立支援な視点から介護保険制度や障害福祉サービスの概要を理解しよう。

【使用教科書・教材・参考書】	【授業外における学習】
「2024介護福祉士国家試験 受験ワークブック 上・下」	介護に関する専門的な用語についてはあらかじめ予習しておくこと。授業後にも、

回	授業概要	回	授業概要
1	<p>【到達目標】 個人の状況を的確に理解した上で必要な環境整備について理解できる。(ICFにおける背景因子の関連性)</p> <p>【授業内容】 介護福祉の基本原則③</p>	9	<p>【到達目標】 事例を用いて、生活のしづらさを抱える人の具体的支援について考えることができる。生活のしづらさがある人の暮らしがイメージできる。</p> <p>【授業内容】 介護を必要とする人の理解①</p>
2	<p>【到達目標】 事例を用いて、ICFの概念を整理できる。ストレングスモデルの概念を理解する。</p> <p>【授業内容】 自立に向けた介護</p>	10	<p>【到達目標】 事例を用いて高齢者の暮らしをアセスメントすることで、高齢者の暮らしがイメージできる。</p> <p>【授業内容】 介護を必要とする人の理解②</p>
3	<p>【到達目標】 介護予防の目的と考え方が理解できる。地域包括ケアシステムと介護福祉士の役割について理解できる。(介護予防事業/サービス)</p> <p>【授業内容】 自立支援と介護予防</p>	11	<p>【到達目標】 事例を用いて、障がいのある人の暮らしをアセスメントすることで、障がいのある人の暮らしがイメージできる。</p> <p>【授業内容】 介護を必要とする人の理解③</p>
4	<p>【到達目標】 リハビリテーションの概念やその体系が理解できる。保険・医療・福祉分野とリハビリテーションの関連性と内容が理解できる。</p> <p>【授業内容】 自立支援とリハビリテーション</p>	12	<p>【到達目標】 フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて理解できる。地域資源についての理解を深める。</p> <p>【授業内容】 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ</p>
5	<p>【到達目標】 職業倫理について日本介後介護福祉士会倫理綱領の内容が理解できる。</p> <p>【授業内容】 介護福祉士の倫理①</p>	13	<p>【到達目標】 介護保険制度の目的と概要が理解できる。介護保険サービスの種類と概要が理解できる。</p> <p>【授業内容】 介護保険サービス</p>
6	<p>【到達目標】 尊厳ある介護実践を行うための視点が理解できる。倫理的判断が必要な場面における判断の視点が理解できる。</p> <p>【授業内容】 介護福祉士の倫理②</p>	14	<p>【到達目標】 障害福祉に関連する法制度とサービスを利用するまでの流れが理解できる。障害者総合支援法と障害福祉サービスの内容が理解できる。</p> <p>【授業内容】 障害福祉サービス</p>
7	<p>【到達目標】 事例検討を通じて介護福祉士としての適切な倫理判断ができる。</p> <p>【授業内容】 介護福祉士の倫理③</p>	15	<p>【到達目標】 授業の振り返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。</p> <p>【授業内容】 期末試験、解答解説</p>

8	<p>【到達目標】 授業の振り返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。</p> <p>【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説</p>	【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価
---	---	--

【特記事項】

科目名 (英)	職業人教育	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	保住・田村
	Professional Training Lecture	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 3限
学科・コース	介護福祉士科						

【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)  
看護師、介護福祉士として就業した専任教員として、社会に出た時に活躍できる人材となるよう授業を進めていく。

【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)  
"職業人教育"とは、社会に出た時に即戦力として活躍できるような人材を育成すること。授業内では、個人ワークやグループワークを行うことがある。社会に出た時は、専門知識・技術以外にも人とのコミュニケーションが大事になりますので、ひとりひとりが積極的・協力的に参加することが大切である。どんな仕事でも一人では行えません。チームで行うことが大半ですので、職業人になるための『身構え』・『気構え』・『心構え』を学ぶ。

【到達目標】  
①社会人として求められる立ち振る舞い(挨拶・返事・言葉遣い・環境整備・時間管理)について理解するとともに、日常生活でも実践できるようになる。  
②振り返るを重ねることで、自分の気持ちを文字で書いて伝えることができる。  
③学生生活のスケジュール管理を自らできるようになる。

【使用教科書・教材・参考書】 Hand book of Life style	【授業外における学習】
---	-------------

回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
1	【到達目標】 1年間の流れを知ることができる  【内容】 オリエンテーション 係の活動4月・5月	9	【到達目標】 自分の目標/係の活動の見直し  【内容】 6月の振り返り/7月の目標 全体会を開こう!!
2	【到達目標】 4月の目標を振り返る/自分を知る  【内容】 ジョハリの窓を知る	10	【到達目標】 プレゼンテーションを学ぼう  【内容】 伝え方
3	【到達目標】 自分を知る!!  【内容】 16パーソナリティーズ・エゴグラム・脳のタイプを聴いて見る	11	【到達目標】 プレゼンテーションを学ぼう  【内容】 作り方
4	【到達目標】 自分を知る!!  【内容】 自分の印象を聴いて見よう 自分らしい 名刺を作ろう!!	12	【到達目標】 オレンジカフェについて知ろう!!  【内容】 オレンジカフェの活動について
5	【到達目標】 自分の目標/係の活動の見直し  【内容】 個人活動/係活動 名刺を渡そう!!	13	【到達目標】 レクリエーションを考えよう!!  【内容】 グループを決め、計画書を立てる
6	【到達目標】 相手を知る  【内容】 年代別の社会を知ろう!!	14	【到達目標】 自分の目標/係の活動の見直し レクリエーション準備  【内容】 振り返り 準備
7	【到達目標】 相手を知る  【内容】 調べ学習	15	【到達目標】 半期の振り返り 定期テスト  【内容】 後期の係について 発表
8	【到達目標】 半期の振り返り  【内容】 相手に伝える		【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)

【特記事項】

科目名 (英)	職業人教育	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	保住・田村
	Professional Training Lecture	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 2限
学科・コース	介護福祉士科						

【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)

看護師、介護福祉士として就業した専任教員として、社会に出た時に活躍できる人材となるよう授業を進めていく。

【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)

”職業人教育”とは、社会に出た時に即戦力として活躍できるような人材を育成すること。授業内では、個人ワークやグループワークを行うことがある。社会に出た時は、専門知識・技術以外にも人とのコミュニケーションが大事になりますので、ひとりひとりが積極的・協力的に参加することが大切である。どんな仕事でも一人では行えません。チームで行うことが大半ですので、職業人になるための『身構え』・『気構え』・『心構え』を学ぶ。

【到達目標】

- ①社会人として求められる立ち振る舞い(挨拶・返事・言葉遣い・環境整備・時間管理)について理解するとともに、日常生活でも実践できるようになる。
- ②振り返るを重ねることで、自分の気持ちを文字で書いて伝えることができる。
- ③おもてなしマスター検定に合格することができる。

【使用教科書・教材・参考書】

Hand book of Life style  
「おもてなしマスター」資格検定教本

【授業外における学習】

回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
1	【到達目標】 自分の目標/係の活動の見直し  【内容】 後期の目標を立てよう!!	9	【到達目標】 自分の目標/係の活動の見直し  【内容】 12月の目標を立てよう!!
2	【到達目標】 後期のクラス運営を考えよう!! 係決め 【内容】 クラス会議 クラス目標について	10	【到達目標】 初めてのオレンジカフェを実施することができる  【内容】 オレンジカフェ本番
3	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える  【内容】 オレンジカフェシミュレーション	11	【到達目標】 おもてなしとは？を考える  【内容】 おもてなしマスターのテキストを見ながら、おもてなしをするにあたり仕事への生かし方について学ぶ
4	【到達目標】 企画運営力を見る  【内容】 先輩の行動を見ながら、企画の立て方を学ぶ 先輩から引き継ぐ	12	【到達目標】 おもてなし技術を学ぶ 1月の目標を立てよう 【内容】 おもてなしマスターのテキストを見ながら、おもてなしをするにあたり仕事への生かし方について学ぶ
5	【到達目標】 初めてのオレンジカフェを実施することができる  【内容】 オレンジカフェ本番	13	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる  【内容】 オレンジカフェ本番
6	【到達目標】 自分の目標/係の活動の見直し  【内容】 11月の目標を立てよう!!	14	【到達目標】 おもてなしマスターになる!! 次年度について考えよう!! 【内容】 おもてなしマスター試験を行う(定期試験)
7	【到達目標】 クラス目標の振り返り  【内容】 8-10月を振り返り 全体会を開こう!!	15	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる  【内容】 オレンジカフェ本番
8	【到達目標】 半期の振り返り  【内容】 定期テスト		【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)

【特記事項】

科目名 (英)	グローイングアップアカデミー Growing up academy	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	保住・田村
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	金曜日・3限目

【授業の学習内容】

本授業は、地域包括支援センターと連携し、学内自習として学内オレンジカフェ(認知症カフェ)を実施することを目標とし、その企画・運営を行う。学生自身が内容や運営に必要なものを考え、クラス全員が地域高齢者と交流することで、職業観を高める。また、教員から教わるだけではなく先輩やクラスメイト同士で学び合い教え合い、協働することを学んでほしい。

【到達目標】

学内認知症カフェの企画・運営を通じて、  
①認知症への理解を深めることができる。②地域包括支援センターの職員の方々とコミュニケーションを図り、地域のニーズのを知ることができる。  
③企画・運営を通じて、実施までのプロセスを体験し、流れを理解することができる。

【使用教科書・教材・参考書】

【授業外における学習】

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 オレンジカフェを実践するイメージをつける  【内容】 オレンジカフェのチーム発表 先輩から引き継ぐ	9	【到達目標】 自分の目標/係の活動の見直し  【内容】 12月の目標を立てよう!!
2	【到達目標】 オレンジカフェを実践するイメージをつける  【内容】 オレンジカフェ半期のスケジュール 先輩から引き継ぐ	10	【到達目標】 初めてのオレンジカフェを実施することができる  【内容】 オレンジカフェ本番
3	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える  【内容】 オレンジカフェシミュレーション	11	【到達目標】 2年生に向けてのスケジュール確認 クラス会議を開こう!!  【内容】 クラスで入学当初のイメージと異なるか等見直していく
4	【到達目標】 企画運営力を見る  【内容】 先輩の行動を見ながら、企画の立て方を学ぶ 先輩から引き継ぐ	12	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える  【内容】 オレンジカフェシミュレーション
5	【到達目標】 初めてのオレンジカフェを実施することができる  【内容】 オレンジカフェ本番	13	【到達目標】 初めてのオレンジカフェを実施することができる  【内容】 オレンジカフェ本番
6	【到達目標】 クラス会議の準備をしよう  【内容】 学生で会議をひらく準備	14	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える  【内容】 オレンジカフェシミュレーション
7	【到達目標】 半期の振り返り  【内容】 定期テスト	15	【到達目標】 初めてのオレンジカフェを実施することができる  【内容】 オレンジカフェ本番
8	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える  【内容】 オレンジカフェシミュレーション	【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)	
【特記事項】			

科目名 (英)	発達と老化の理解 Comorehension of growth and aging	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	白井良江
		授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 4限
学科・コース	介護福祉士科						

【実務経験】  
 大学病院内内分泌代謝科・訪問看護・有料老人ホームに勤務し、看護師として25年以上の経験を持つ。

【授業の学習内容】  
 病院勤務から介護福祉施設まで、医療や介護にかかわる経験をいかし、イラストや写真を見ながら医学的基礎知識を説明する。実体験から、印象に残る話をまじえて伝える。老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響、それらに合わせてどのような対応や配慮が必要か、理解を深めてほしい。

【到達目標】  
 発達の観点から老化を理解し、その心理と身体機能の変化の基礎的知識を習得する。

【使用教科書・教材・参考書】  
 介護福祉士国家試験 受験ワークブック 上 発達と老化の理解

【授業外における学習】  
 「ころころからだのしくみ」と重複する内容があり、老化の視点からも理解を深める。

回	授業概要	回	授業概要
1	<p>【到達目標】            授業の進め方と評価について・発達と老化の理解について学ぶ意義を理解することができる。発達の概念を理解できる。</p> <p>【授業内容】            オリエンテーション            運動・言葉の発達</p>	9	<p>【到達目標】            老化に伴うころころからだの変化と生活を理解できる。</p> <p>【授業内容】            記憶・知能</p>
2	<p>【到達目標】            人間の成長と発達の基礎的知識を理解できる。</p> <p>【授業内容】            身体的・運動・言葉・社会的行動の発達 スキャモンの発達曲線愛着</p>	10	<p>【到達目標】            高齢者と健康について理解できる。</p> <p>【授業内容】            平均寿命と健康寿命</p>
3	<p>【到達目標】            コールバーグ、ピアジェ、エリクソン、ハヴィガーストの発達理論を理解できる。</p> <p>【授業内容】            発達段階説・発達課題</p>	11	<p>【到達目標】            高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点が理解できる。</p> <p>【授業内容】            高齢者の症状、疾患の特徴 表11</p>
4	<p>【到達目標】            老年期の定義・老化学説について理解できる。</p> <p>【授業内容】            老年期の定義・老化学説</p>	12	<p>【到達目標】            高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点が理解できる。</p> <p>【授業内容】            骨・筋肉・関節</p>
5	<p>【到達目標】            喪失体験・老年期の発達課題について理解できる。</p> <p>【授業内容】            老性自覚・高齢者の喪失体験・高齢者と健康</p>	13	<p>【到達目標】            高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点が理解できる。</p> <p>【授業内容】            脳・神経系 パーキンソン病 脳血管疾患</p>
6	<p>【到達目標】            老化に伴うころころからだの変化と生活を理解できる。</p> <p>【授業内容】            老化に伴う機能的な変化 表7</p>	14	<p>【到達目標】            高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点が理解できる。</p> <p>【授業内容】            皮膚・感覚器            前期のふりかえり</p>
7	<p>【到達目標】            老化に伴うころころからだの変化と生活を理解できる。</p> <p>【授業内容】            感覚の加齢変化 表8</p>	15	<p>【到達目標】            高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点が理解できる。</p> <p>【授業内容】            定期試験            前期授業ふりかえり</p>
8	<p>【到達目標】            老化に伴うころころからだの変化と生活を理解できる。</p> <p>【授業内容】            中間試験            記憶</p>		<p>【評価について】            筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。            ○成績評価            点数100～90点＝A評価            点数 89～80点＝B評価            点数 79～70点＝C評価            点数 69～60点＝D評価            点数 59点以下＝F評価            ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)</p>

【特記事項】

科目名 (英)	発達と老化の理解 Comorehension of growth and aging	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	白井良江
		授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 4限
学科・コース	介護福祉士科						

【実務経験】  
大学病院内分泌代謝科・訪問看護・有料老人ホームに勤務し、看護師として25年以上の経験を持つ。

【授業の学習内容】  
病院勤務から介護福祉施設まで、医療や介護にかかわる経験をいかし、イラストや写真を見ながら医学的基礎知識を説明する。実体験から、印象に残る話をまじえて伝える。老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響、それらに合わせてどのような対応や配慮が必要か、理解を深めてほしい。

【到達目標】  
発達の観点から老化を理解し、その心理と身体機能の変化の基礎的知識を習得する。

【使用教科書・教材・参考書】 介護福祉士国家試験 受験ワークブック 上 発達と老化の理解	【授業外における学習】 「こころとからだ」と重複する内容があり、老化の視点からも理解を深める。
---	--

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 高齢者の疾病と生活上の留意点を理解できる。 【授業内容】 循環器系(高血圧 狭心症 心筋梗塞 心房細動 心不全)	9	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 脱水 熱中症 めまい
2	【到達目標】 高齢者の疾病と生活上の留意点を理解できる。 【授業内容】 呼吸器系(COPD 誤嚥性肺炎 肺結核)	10	【到達目標】 保健医療職との連携・薬剤の知識が理解できる。 【授業内容】 浮腫 保健医療職との連携 チームケア・薬剤の基礎知識
3	【到達目標】 高齢者の疾病と生活上の留意点を理解できる。 【授業内容】 消化器系(胃潰瘍 ウイルス性肝炎 便秘)	11	【到達目標】 発達段階別にみた特徴的な疾病や障害を理解できる 【授業内容】 先天性の異常や発達障害 生活習慣病
4	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 腎・泌尿器系(前立腺肥大 尿路感染症 尿失禁)	12	【到達目標】 復習:老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解できる。 【授業内容】 老化に伴う機能的な変化 表7
5	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 内分泌・代謝系(糖尿病 脂質異常症 痛風)	13	【到達目標】 復習:高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 高齢者の症状、疾患の特徴 表11
6	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 歯・口腔疾患(虫歯 嚥下障害)	14	【到達目標】 復習:老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解できる。 【授業内容】 記憶 知能 後期のふりかえり
7	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 悪性新生物	15	【到達目標】 これまでの授業で学習した内容が定着する。 解答解説から、自分の理解度を知る。 【授業内容】 定期試験 解答解説
8	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 中間試験 感染症		【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点=A評価 点数89～80点=B評価 点数79～70点=C評価 点数69～60点=D評価 点数59点以下=F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)

【特記事項】